

砂防に学ぶ

事務所	市町村	テーマ	エリア・施設等	特記事項	周辺施設
県庁	砂防課	土砂災害情報の収集・発信、マイハザードマップ作製指導等		2006.6月より土砂災害全国一斉防災訓練 2008.11月より 親子砂防教室開催	
尾張建設	瀬戸市	はげ山の復旧 多目的ダムの先駆 2005愛知万博開催/瀬戸会場 /自然と共生する砂防事業	萩御殿、萩殿の森 (1900 M33頃) ホフマン工事 (1905 M38頃) 山口堰堤 (1933 S8頃) 矢田川砂防ダム (穴あきダム) 吉田川スリットダム等環境配慮工事 あいち海上の森センター	2022.10月親子砂防教室⑬開催 2001.3月 第8回治水史跡探訪会 2001.3月 第8回治水史跡探訪会 2025.5月 ブライイチ@in瀬戸 2025.5月 ブライイチ@in瀬戸開催 2009.8月親子砂防教室②開催 2021.11月 砂防施設を訪ねるWalking② 2025.5月ブライイチ@in瀬戸開催	東京大学 瀬戸演習林 海上の森 里山遊歩ゾーン 広久手30号窯
	長久手市	砂防遊砂地	香流川砂防公園		2005愛知万博長久手会場 愛・地球博記念公園 愛知県陶磁美術館 (瀬戸市)
一宮建設	犬山市	木曾川扇状地の出口/濃尾平野 砂防学習施設	小野洞川砂防公園 /愛知県治水砂防協会50周年事業	2008.11月親子砂防教室①開催 2015.7月 親子砂防教室⑧開催 2021.3月 砂防施設を訪ねるWalking①	
		水辺の楽校登録地 入鹿池 (1633完成) と 入鹿池決壊 (1868 S元年) 新川開削/新郷瀬川など変遷 2010.7月 犬山・可児豪雨災害	栗栖川やんちゃ村 (砂防河川) 五条川、入鹿池、 新郷瀬川/庄内川流域から木曾川流域へ 開削工事の痕跡をたどる	2009.8月親子砂防教室②開催 2021.3月 砂防施設を訪ねるWalking① 1999.3月 第1回治水史跡探訪会 2019.2月 ブライイチ@in犬山 2023.5月 愛知・川の会 「新郷瀬川エクスカージョン」	木曾川 (犬山城) 入鹿池、 明治村
知多建設	常滑市	急傾斜地と斜面まちづくり	本郷区域等急傾斜地崩壊防止施設	2025.2月 砂防施設を訪ねるWalking④	常滑やきもの散歩道
	南知多町	観光地を守る急傾斜事業 地すべり対策事業 (県内23区域)	永峯区域 (日間賀島) 1990年代 豊浜区域、半月区域		日間賀島
知立建設	高浜市	急傾斜地と斜面まちづくり	高浜区域とかわらのまち		高浜ウォーキングトレイル事業 高浜市かわら美術館
西三河建設	岡崎市 (岡崎)	一級河川内の大規模砂防ダム	日陰砂防ダム (群界川)		群界川 二畳ヶ滝
	(額田)	渓流環境整備	鹿勝川遊歩道		男川、鳥川ホテルの里
豊田加茂建設	豊田市 (豊田)	【豊田・猿投】 猿投山を源流とする龍川流域	加納川砂防ダム 加納川近自然工事 (1990) 豊田市施工 広沢川ふるさと川の川づくり (2020年~) 龍川水系の多自然川づくり (1994~現在)		猿投山
		【豊田・松平】 近自然工事の先駆 ふるさと砂防事業	太田川砂防 (岩組)、 下流の近自然工事 (豊田市施工) 日明川ふるさと砂防事業、スリットダム		豊田市野外教育センター 仁王川、王滝渓谷
(小原・藤岡)	【豊田・松平】 近自然工事の先駆 ふるさと砂防事業	昭和47年災害の記憶	47災被災地/小原・藤岡全域		
		白川砂防ダム 堂ノ本急傾斜区域 (特定利用斜面保全)	2010.8月親子砂防教室③開催 2012.8月親子砂防教室⑤開催 2017.6月2日 第35回 土砂災害全国の集い 現地講習会にて案内 (松武義聰氏) 2019.7月親子砂防教室⑪開催	木瀬ダム 小原 四季桜	白川砂防ダム↑ 堂ノ本区域
(足助・旭)	【豊田・松平】 近自然工事の先駆 ふるさと砂防事業	恵南・東加茂豪雨災害の記憶 2000年 東海豪雨の記憶	元年災被災地/旭地区を中心に 駒山川砂防スリットダム群 (2010年代) /東海豪雨対応事業	2017.6月 (県職員) 砂防工事見学会	矢作ダム、奥矢作湖
		足助急傾斜区域 (1990災害関連事業) 城山沢砂防堰堤、岩崎急傾斜区域	2024.5月 ブライイチ@in足助	足助のまちなみ、香嵐渓	
(稲武)	【豊田・松平】 近自然工事の先駆 ふるさと砂防事業	景観砂防の先駆	井山川 (岩組)		名古屋市野外教育センター
		2000年 東海豪雨の記憶	河上瀬川土石流対策事業		
新城設案建設	新城市 (鳳来)	2023年6月大雨 土石流災害 地すべり対策事業 (県内23区域) 総合土砂災害対策モデル事業	阿寺川流域の土石流対策 (実施中; 治山) 四谷地すべり区域 地滑り監視システム (1994~)	2023.10月 砂防ボランティア現地調査	阿寺の七滝 四谷千枚田
設楽町 (津具)	地域活性に貢献する砂防事業	丸山川 (岩組) 砂防工事			つく高原グリーンパーク (道の駅)
東栄町	環境に配慮した砂防	足込川 (階段・親水護岸)			
豊根村	地すべり対策事業 (県内23区域)	大畑地すべり区域 (集水井工)			
東三河建設	豊橋市	ふるさと砂防事業	宮川ふるさと砂防事業/遊砂地	2020.12月 ブライイチ@inとよはし	東海道二川宿
	豊川市	2023年6月大雨 土石流災害	御津山土石流対策	2023.10月 砂防ボランティア現地調査	

【県外】

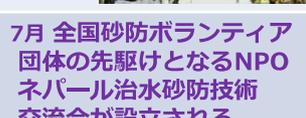
岐阜県	海津市	砂防学習施設	さぼう遊学館・羽根谷だんだん公園	2021.12月親子砂防教室⑫開催	
三重県	菟野町	2008年9月大雨 土石流災害	湯の山温泉を守った砂防ダム (朝明溪流) 満砂となり上流に鋼製スリットダム建設	2014.10月 川づくり会議みえ & 愛知・川の会共催エクスカージョン	湯の山温泉 御在所岳
	大台町 (宮川村)	2004年9月台風21号 宮川等災害	大規模土砂災害の痕跡	三重大学・近藤観慈准教授の調査・研究	「林学の道」 (2008.5月)
静岡県	浜松市	天竜川における治水事業を 治山・植林により展開/金原明善 (1870-1880年代; 明治初期)	金原明善記念館	2005.11月 第23回 治水史跡探訪会 2021.10月 愛知・川の会 (野口久) 取材 / 金原利幸 館長 2023; 明善没後100年	金原 明善
長野県	飯田市	1961.6月 天竜川3 6水害の記憶	天竜川総合学習館 (かわらんべ)	2015.10月 中部いい川シンポジウム in 天竜川 / 愛知・川の会参加	
	大鹿村	選奨土木遺産/砂防施設	上蔵砂防堰堤 (1954築)	2019 土木学会選奨土木遺産選定	中央構造線博物館 小洪ダム / 排砂バイパス
	駒ヶ根市	砂防学習施設	駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム / 大田切川流路工	2022.11月 第1回 中部のいい川IWS in 天竜川流域 / 中部流域連携NW	駒ヶ根高原



伊勢湾流域圏を考える【砂防編】



砂防の歴史と、砂防ボランティア協会（1996設立）のあゆみ

年度	ボランティア協会あゆみ	愛知県など行政	災害などイベント
近代治水 1890以降	治水三法の制定 1896（明治29年）河川法	1897（明治30年）砂防法、森林法が制定される	
1940年代		1940（昭和15年）.2.25 愛知県治水砂防協会設立	1944.12.7 昭和東南海地震／1,200人 1945.1.13 三河地震／3,400人 1945.8.15 日本 第二次世界大戦終戦 1946.12.21 昭和南海地震／1,400人
1950年代		1951.1.20 砂防課 発足 （河港課より独立） 1957～58頃 砂防直営時代の終焉	1953.6月 西日本水害（九州北部） 1959.9月 伊勢湾台風襲来
1960年代		1960 松武義聰氏 愛知県入庁（豊田） 1966 瀧川桂三氏 砂防課新規採用	1961.6月 3 6 水害（天竜川） 1964.10月 東京オリンピック開催 1968.8月 飛騨川バス転落事故（土石流）
1970年代		1970～71 砂防課長 能勢甲子郎氏 1972～73 砂防課長 加藤哲朗氏 1977 多田哲也氏 砂防課新規採用 1979 近藤観慈氏 砂防課新規採用	1970.3～9月 大阪万博開催 1972.7月 47災害（小原・藤岡など） 砂防課総動員で応援体制を組織する 1979.10.28 木曾御嶽山噴火
1980年代		1984.1月 愛知県総合土石流対策 推進連絡会が発足 1985 県総合土石流対策事業開始	1982.7月 長崎県集中豪雨 1983.7月 島根県西部豪雨（福井康派遣） 1984.9.14 長野県西部地震（松武派遣）
1988. 3月	河川審議会「総合的な治水対策の実施方策の提言」 ／総合的な土石流対策・土砂災害対策の推進について強く打ち出される、中央防災会議においては要綱が決定 ●1976. 「山津波等に対する警戒態勢の確立について」建設省河川局長通達 ●1977.6月 「総合的な治水対策の推進方策についての中間答申」河川審議会		
1988 昭和天皇崩御 1989.1.8より新元号「平成」となる		砂防課に総合土砂災害対策主幹新設 初代主幹に松武義聰氏が就任	1988.9～10月 ソウルオリンピック開催 * 愛知県・名古屋市中で誘致失敗した大会
1989 (H1)	1990 の砂防課 	1989～90 砂防課長 松武義聰氏 元年災対応のため旭町災害詰所開設 ／豊田土木中心に全土木部局対応へ	1989.7～11月 名古屋デザイン博開催 1989.9月 平成元年 恵南・東加茂豪雨 災害（いわゆる元年災）が発生
1990		6/1 愛知県治水砂防協会50周年記念 行事開催 記念誌「愛知の砂防」発刊 11/16 小野洞川砂防公園 起工式 1991.3/19 白川砂防ダム 起工式	1990.4～9月 大阪・花の万博開催 1990.11.17 長崎県雲仙普賢岳噴火 1991.6.3 雲仙普賢岳火砕流により 43名が犠牲となる
1991		1991年度末 失業対策事業を廃止	1991.9月 台風18号豪雨／内津川決壊
1992		5月 新たな急傾斜崩壊危険箇所1,527公表 「さぼう あのととき」初版発刊 11～12月 JICA調査団 近藤観慈氏ネパール派遣（1990.4月～1992.4月 土研）	
1993	7月 全国砂防ボランティア 団体の先駆けとなるNPO ネパール治水砂防技術 交流会が設立される	5月 新たな土石流危険渓流1,184、 地すべり危険箇所75 公表 県初の土砂災害危険箇所マップ 被害想定 10万戸に配布	1993.7.12 北海道南西沖地震発生 ／奥尻島など（北原章氏調査団派遣）
1994	1995.3月 松武義聰氏が 愛知県退職（企画部技監）	総合土砂災害対策監視システム稼働 （新城・鳳来・作手） 1995.3月～1996.10月 北原一郎氏ネパールへ派遣	1995.1.17 兵庫県南部地震発生 ／阪神淡路大震災 死者等6,400名以上 （山本直樹、城戸毅氏派遣） 他に新城・大田道夫、豊田・鷲見純良氏
1995	7月 砂防学会総会・研究発表会を愛知県開催（愛知県産業貿易会館）		
1996 (H8) ～1999	1996.12.24 愛知県砂防ボランティア協会設立(19番目) 会員数22名 ／初代会長 能勢甲子郎氏（1999.6/22逝去） 2代目会長 加藤哲朗氏（2000.7/1逝去） 1997.6月 砂防ボランティア整備推進機構に全国連絡協議会 設置		1996年度(1年) 新城・大木克彦氏を 阪神淡路大震災復旧作業応援派遣 1999.6月 広島豪雨災害 ／土砂災害防止法制定の契機となる
2000	協会会長不在 松武副会長が主に代行	2000年度より災害復旧事業業務を 砂防課が担うこととなる	2000.9月 東海豪雨による甚大な被害

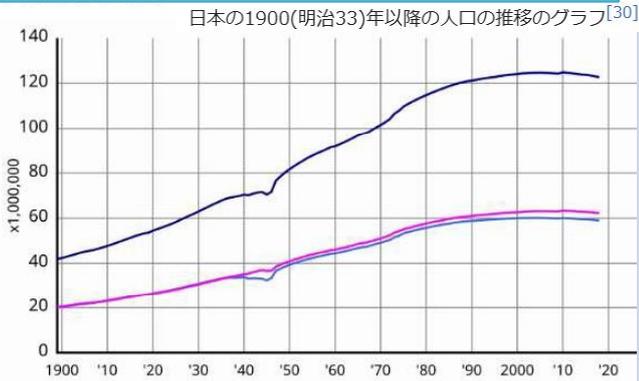
年度	ボランティア協会あゆみ	愛知県など行政	災害などイベント
2001. 4月	土砂災害防止法 施行 / 1999 広島豪雨災害を踏まえ ～開発規制にも踏み込む		
2001.7月	松武義聰氏が愛知県砂防ボランティア協会3代目会長に就任する		
2001 ～2004	2001.4月～ 近藤観慈氏 三重大学准教授に ／宮川水害など調査研究	愛知万博会場計画（瀬戸会場縮小） 変更に基づき、瀬戸市 海上の森周辺 の環境配慮型砂防事業を展開 ／矢戸川えん堤、吉田川スリット 砂防ダム、魚道、ピオトープなど	2004.7月 福井豪雨災害／足羽川など 2004.9月 台風21号により宮川等災害 ／伊勢湾各地に大量の流木漂着 2004.10.23 新潟県中越地震／天然ダム
2005	愛知万博瀬戸会場において 砂防広報活動を展開		2005.3～9月 愛知万博開催 ／瀬戸・長久手会場「自然の叡智」
2006～07	2007.5/8 近藤観慈氏急逝 2008、「林学の道」発刊	2006.6月 土砂災害防止月間より 「土砂災害全国一斉防災訓練」開始	2007.7月 新潟県中越沖地震
2008	第3回「土砂災害全国一斉 防災訓練」より協会が支援 「親子砂防教室」は第1回 目より支援している	6月 豊橋市、豊川市、設楽町、豊根 で訓練実施 ～協会と共に毎年実施 11月 親子砂防教室スタート ／小野洞川砂防公園(犬山)など	2008.6月 岩手・宮城内陸地震 ／天然ダム 2008.8月 平成20年8月末豪雨 ／線状降水帯
2009	8月「親子砂防教室」② ／栗栖川(犬山)、 吉田川(瀬戸) ～以降、毎年開催・支援	6月「土砂災害全国一斉 防災訓練」 ／5市町で実施 ～現在まで継続 11月 全国がけ協 研修会・発表会を 愛知県セントレア(常滑市)で開催 ／常滑やきもの散歩道視察研修	2009.7月 中国・九州北部豪雨 ／山口県防府市で老人ホーム被災 * 垂直避難も必要との指摘 2009.8月 兵庫県佐用町豪雨災害 * 避難途中で水路濁流に流される
2010		2007.急逝された 近藤観慈氏の記録 「林学の道」は 2008年5月発刊	2010.7月 梅雨前線による豪雨災害 ／岐阜県可児川、犬山市新郷瀬川 2010.11月 生物多様性条約第10回 締約国会議(CBD/COP10)愛知開催 2011.3.11 東日本大震災・大津波 死者等 約23,000人
2011			2011.9月 紀伊半島豪雨災害／深層崩壊
2012	7月 松武氏より第4代目・ 瀧川桂三 会長へ引継ぐ		2012.7月 九州北部豪雨 ／熊本広域・白川など氾濫
2013 ～2014			2014.8月 広島8月豪雨災害 ／土砂災害防止法改訂へ
2015	6月 松武義聰氏 土砂災害防止功労者表彰		2015.9月 関東・東北豪雨災害 ／利根川水系 鬼怒川決壊など
2016	城山敏博 会長（5代目）		2016.4.16 熊本地震
2017	6/1～2 第35回「土砂災害 防止 全国の集い」 in 愛知 （豊田）松武義聰氏講演	2017.12/24 第1回 ブライイチを 岡崎市で開催し、以降2025.5月まで 18回継続展開している	2017.7月 九州北部豪雨(福岡・大分) ／筑後川水系など(朝倉市)
2018		松武義聰氏手記	2018.7月 西日本豪雨(西日本広域水害) ／高梁川、小田川(岡山) など 2018.9月 台風21号／大阪湾タンカー 2018.9.6 北海道胆振東部地震
2019			2019.10月 台風19号(東日本豪雨) ／宮城、福島、長野県など広域被害
2020 ～2022 コロナ禍	安井雅彦 会長（6代目） 2021.1/12 松武氏逝去 2021.3月「砂防施設を訪ね るウォーキング」開始 ／小野洞砂防公園から 2021.11月 あいち防災フェ スタ支援の開始 2024.2.10 親子砂防教室⑬ in 西尾／信大学生の参加	2020.12.13 ブライイチ ^⑩ とよはし にて宮川ふるさと砂防の案内	2020.4月以降～ 新型コロナ感染拡大 ／継続的なパンデミック発生 2020.7月 令和2年7月豪雨（梅雨前線） ／球磨川水害
2023		2022. 47災害から50年を振り返る 機運なく／劣化する災害の記憶	2021.7.3 静岡県熱海土石流災害 ／違法盛土の問題提起
2024	石川博英 会長（7代目）	2024.5.26 ブライイチ ^⑮ 足助 2025.2.28 ブライイチ ^⑰ 大府 2025.5.18 ブライイチ ^⑱ 瀬戸 ／山口堰堤など砂防施設等の案内	2023.6月 台風2号の影響による大雨 6.2 豊川市御津山洞、阿寺川 土石流
2025 ～2026	2026.12.24 協会設立 30年を迎える		2024.1.1 能登半島地震発生 2024.9月 能登半島豪雨 2025.1月 埼玉県八潮市 下水道陥没事故

これからの流域圏社会を考えるために（文責；近藤朗）

私たちは果たして何を目指してきたのか？

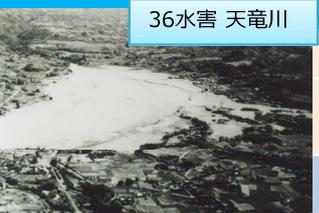
1957年生まれの私（近藤）が幼少期から経験してきた中で大きな出来事は二つあり、2歳の時の伊勢湾台風（1959年）のかすかではあるが衝撃的な記憶・原体験と、1970年の大阪万博である。この頃の日本の人口は、一億人を越えたばかりの時期であり、いわゆる高度成長期を迎えていく時代。大阪万博の「人類と進歩と調和」というテーマは深く心に刻まれており、当時万博少年だった私は明るい未来を思い描いていた。果たしてそれからわが国はどのような道を進んできたのだろうか？ そのことも踏まえつつ、改めてこれからの未来について考えていかなければと思う。私が素晴らしい未来を夢見ていた少年時代は、当時は何も知らなかったのだけれども、実は日本の深刻な公害時代でもあったのだとも知る。

流域圏創造年表 1959-1980

年月日	イベント	
1959.9月	<p>愛知県・伊勢湾を中心に伊勢湾台風が襲来、甚大な被害を及ぼす ／ 死者・行方不明者は5,000名以上に及ぶ（愛知県で3,300名以上）</p> <p>* 当時2歳の近藤の原体験である（名古屋市南部の緑区にて暮らす）</p>	
日本の公害時代 = 高度成長期	<p>1910年代～ イタイイタイ病 1956～ 熊本水俣病 1960～ 四日市ぜんそく 1964 新潟水俣病 1967 公害対策基本法制定 1969 矢水協設立</p>	
1970	<p>いわゆる「公害国会」を経て</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水質汚濁防止法制定 ● 廃棄物の処理及び清掃に関する法律制定（廃掃法） 	
1970	<p>EXPO70 大阪万博開催 大阪千里の丘にて開催 「人類の進歩と調和」 ／ 入場者は6,200万人以上に * 中学1年生の近藤も新幹線で大阪へ 1964 東京-大阪間開業（東京オリンピック）</p>	
1970～	<p>扇川都市小河川改修事業始まる * この年に都市小河川補助事業始まる</p>	<p>鳴海絞、有松絞 発祥の地であり、だから私は川の色は紫色藍色だと普通に思っていた</p> <p>伊勢湾台風後に改修された（天白川水系）扇川、手越川の現在（名古屋市緑区）</p>
<p>日本の長期人口推移 / 21世紀に入り人口減少へと転じる</p> <p>日本の1900(明治33)年以降の人口の推移のグラフ^[30]</p> 		<p>手越川</p> 
		
		<p>扇川</p> 
1977	<p>河川審議会答申「総合的な治水対策の推進について」 ／ 愛知県では、新川、境川水系で展開</p>	
1980. 4. 1	<p>近藤、愛知県庁入庁 河川工事事務所配属</p>	

私たちのあゆみ ～災害などを中心に～

流域圏創造年表 1872-1990

年月日	イベント		トピックス
1872年 1913年 1950. 1.20	愛知県成立 / 愛知県庁発足 愛知県河港課発足 愛知県砂防課発足 (河川課より独立) * 1940. 2.25 愛知県治水砂防協会設立		 室原知幸氏と蜂の巣城
1953.6月	昭和28年西日本水害 九州北部を中心に甚大な被害発生 / 死者等1,000名以上	西日本水害 	
1958~1970	ダム建設史上最大の反対運動「蜂の巣城」 闘争が筑後川流域で展開される / 室原知幸氏が主導した住民運動 舞台となった下釜ダム、松原ダムは「西日本水害」を契機に計画されたもの 完成したダム湖は「蜂の巣湖」と命名される 「公共事業は理に叶い、法に叶い、状に叶わなければならない」(室原知幸) * 1974.4月 この闘争を契機に「水源地域対策特別措置法」が施行		 36水害 天竜川
1959.9月	愛知県・伊勢湾を中心に伊勢湾台風が襲来、甚大な被害を及ぼす (1頁参照)		
1961.6月	36水害 天竜川流域 (長野県飯田市、中川村始め) などで死者行方不明者357名		
1966年~	成田新空港建設に対する成田闘争 (三里塚) が勃発する / 1971年 土地収用への行政代執行を国が強行		
1972.7月	47災 / 昭和47年7月豪雨災害 死者行方不明者、全国で443名 この内愛知県 (豊田・藤岡・小原) で67名 特に山間地域の土砂災害に対して警戒避難体制の課題が浮彫になった災害		 47災での三河山間地の荒廃
1973年~	境川流域下水道事業に対する本格的な反対運動が始まる / 1981年 土地収用への行政代執行を愛知県が強行		
1976.9月	台風17号による豪雨災害 / 岐阜県安八町で長良川決壊し被害が最大であったため「安八水害」とも呼ばれる 死者行方不明者全国で170名以上	決壊した長良川 	
1978年頃	三河湾の干潟面積が1945年当時の半分程度となる / 埋立が進む		
1979.10.28	木曾御嶽山、有史以来の噴火		
1980.12月	豊川浄化センター供用開始	1989 境川浄化センター供用開始 1992 矢作川浄化センター供用開始	
1984. 9.14	長野県西部地震 (大滝村) 死者29名	愛知県調査団に松武義聰氏参加	長野県西部地震 
1988年度	愛知県砂防課に総合土砂災害対策主幹新設 松武義聰氏が就任 ~ 総合土砂災害対策の推進 愛知県河川課に水防テレメーターシステム HANS が稼働する		
1989.9月	いわゆる元年災 / 平成元年 恵南・東加茂豪雨災害が発生 東加茂郡旭町・足助町を中心に激特事業指定 旭町災害詰所設置による復旧活動体制を敷く	 	 松武さん以下旭詰所メンバーたち
1990年	愛知県治水砂防協会50周年	記念誌「愛知の砂防」発刊	
1990.11.17	雲仙普賢岳が198年ぶりに噴火 1991.6.3 火砕流により死者行方不明者43名 * 近藤が現地視察 / 雲仙・天草、普賢岳		

流域圏創造年表 1990-1998年

河川行政の転換

年月日	イベント	
1990年	*建設省 関正和氏が「大地の川」「天空の川」を著す 1990.11月 建設省が「多自然型川づくり」推進を通告	 
1991年	豊田市矢作川環境整備計画検討委員会設立 1991.9月 委員会が欧州「近自然工法」視察 (案内) 西日本科学技術研究所 福留脩文ら ～ 帰国後愛知県は矢作川古川水制工群、 豊田市は加納川、児ノ口公園などで 実践していく	 
1991. 9月	平成3年 台風18号豪雨 1991.9.19朝、内津川の堤防が決壊 大規模な浸水被害が発生した 天白川（ポンプ場浸水やトヨタ関連工場 の冠水）や知多半島（死者2名）など で大きな被害が発生した *なおこの後の台風19号（9.25～28） は暴風を伴い、東北では「りんご台風」 と呼ばれる（この9月に17号から3つの 台風が日本列島を襲われた）	 
1992. 6. 3 ～ 6.14	リオ地球サミット1992 国連環境開発会議「リオ宣言」 ／ 行動計画として「アジェンダ21」が採択される ●森林原則声明（発展途上国の反対で条約に至らず）合意 ●気候変動条約、生物多様性条約が提起 伝説のスピーチ（12才のカナダ人少女） 「どうやって直すかわからないものを、 壊しつづけるのはやめてください」	 
1993. 5月	愛知県「土砂災害危険箇所マップ」を始めて作成し、県内全域で10万部を配布 総合土砂災害対策の一環として（砂防担当；近藤朗）	
1993. 7.12	北海道南西沖地震／奥尻島などで津波被害 死者行方不明者230名	
1993 ～ 1994年	1993 記録的な冷夏によるコメ不足問題 ～タイ米（輸入）騒動が起きる 1994 平成の大渇水 ～全国各地で給水制限が行われる事態に	
1994. 7月	豊田市矢作川研究所設立（豊田土木赴任）近藤朗 初代アドバイザー就任 以降、逢妻女川（柳枝工）、龍川（多段落差工）、 仁王川、市木川などで多自然型川づくりを推進していく	
1995. 1.17	阪神・淡路大震災 死者 6,400名以上	  
1995. 7月	長良川河口堰の完成・運用開始 1988年の着工以来、それ以前より 様々な議論、反対運動が展開された 河口堰が完成し運用される 運用後の現在も様々な議論が・・・	 
1996. 3月	豊田市矢作川環境整備計画が策定・公表	
1996.12月	愛知県砂防ボランティア協会設立 初代会長；能勢甲子郎	
1997. 6月	河川法改正 ／ 河川環境の保全と創出を目的に追加 1999 河川審議会提言 「パートナーシップによる河川管理 に関する提言」～ 反省を踏まえて	
1998.7月	第1回「川の日」ワークショップ／ 全国水環境交流会山道省三、堺かなえ （東京お台場にて）愛知県河川課 寺西億人発表／ 矢田川「水辺の緑の回廊」	

流域圏創造年表 1999 - 2005 年

年月日	イベント	
1999. 6月	広島（福岡）豪雨災害 死者39名 広島市では新興住宅地で土砂災害が著しく、 この災害を契機に開発規制に踏み込んだ 「土砂災害防止法」制定へ（2001年4月施行）	 
1999. 1月	名古屋市が藤前干潟に計画していた ごみ埋め立て（処分地）計画を断念 1999.2月 「ごみ非常事態」宣言 徹底した分別とリサイクルを推進 2000.9.11 東海豪雨災害発生 新川・庄内川河口干潟保全と 激特事業調整へ「干潟調査会」設置 ／2000-2005年度（担当；近藤） 2002.11.18 ラムサールCOP10にて 藤前干潟がラムサール登録湿地へ	   
2000.9月	愛知県に東海豪雨が来襲 各地に甚大な被害 矢作川ダムに大量の流木が漂着 (約35,000m3) → * 東海豪雨での土砂災害 ／稲武町大野瀬河上瀬川の土石流など	  
	東海豪雨での土砂災害 -大山市倉曾湖でのがけ崩れ	  
		■2000年度より 災害復旧業務は 河川課から砂防課に 移管されていた矢先
2001. 4月	土砂災害防止法 施行 / 1999 広島豪雨災害を踏まえ ~開発規制にも踏み込む	
2003. 3月	愛知・川の会 設立 (3.18) 2010.8月 矢作川流域圏懇談会 参画 2012.4月 奈佐の浜プロジェクト 設立	初代会長；五十住博之 企画運営；近藤朗
		 
2003. 4月~	近藤朗が公共建築課へ 2005愛知万博・瀬戸会場整備に 着手する / 海上の森 保全へ	
	日本野鳥の会と オオタカ検討会 古南幸弘、曾我部行子 公共建築課 岸直樹	  
2004.9月	台風21号による三重県・宮川等災害 各地に甚大な被害をもたらす 後に JEAN 小島あずささんが 鳥羽市・答志島を訪れる 「これはごみ問題だ！」 (漁師さんからの声)	伊勢湾各地に大量の流木が漂着
	2008.10月 海ごみサミット鳥羽会議	三重大・近藤観慈氏が 災害後に調査・研究着手
		  
2005 3月~9月	愛知万博 開催「自然の叡智」テーマ 近藤朗 が会場整備を担当／海上の森	
2005.7月	第8回「川の日」WSを矢作川 (豊田市) にて開催する	 

流域圏創造年表 2005-2014年

年月日	イベント	
2008.8月	<p>平成20年8月末豪雨 愛知県 西三河・東三河地方に 甚大な被害をもたらす ／伊賀川、乙川、 広田川水系 (菱池) など</p> <p>矢作川水系エクスカージョン 乙川、伊賀川、鹿乗川、広田川など(岡崎・幸田) -平成20年8月末豪雨から今、流域と共に生きる-</p>	 <p>2024.1.21 愛知・川の会 8月末豪雨エクスカージョン実施</p>
2010.7月	<p>2010年豪雨災害(梅雨前線) 岐阜県可児川にて氾濫被害広がる 愛知県では犬山市内の新郷瀬川越水</p> <p>氾濫した可児川</p>	<p>2023.5.27 愛知・川の会 新郷瀬川エクスカージョン実施</p> <p>改修が進んだ新郷瀬川</p> 
2010.11月	<p>生物多様性条約 第10回締約国会議 愛知・名古屋(CBD/COP10)開催 Count Down 2010 Project の推進</p> 	<p>生物多様性フォーラム(JFB) ホストNGO担う ／Nacs-J、 WWF Japan、 日本野鳥の会 などと共に</p>  <p>武者小路公秀、 清野聡子、 曾我部行子 近藤 ／道家哲平、 古南幸弘など</p>
2011. 3.11	<p>東日本・大震災 大津波が東北地方 東海岸を襲う ／大量の災害ごみが太平洋へ</p>	<p>死者・行方不明者 約23,000人</p> 
2011.7月~	<p>JFB & 愛知・川の会 関東・東北地方被災地視察へ 7月 栃木県那珂川、 千葉県浦安地盤沈下 9月 宮城県~岩手県海岸 2012.5月 福島県阿武隈川、 ~ 宮城県気仙沼港</p>	
2011. 9. 3~4	<p>台風12号 紀伊半島豪雨災害</p>	<p>深層崩壊による土砂災害など</p>
2012. 7月	<p>九州北部豪雨／熊本広域 白川など氾濫</p>	
2012. 7月	<p>太田猛彦(東大名誉教授)氏が「森林飽和 国土の変貌を考える」著す</p>	
2013. 3. 2	<p>愛知・川の会 10周年記念講演会 東京大学 沖大幹 教授(名城大学) 「川と水と国土の未来を考える」</p>	<p>出来ることではなく、やらなければならないことをやるべきだ (「ハリーポッター」より)</p>
2013. 5.24	<p>愛知・川の会 総会(10周年) 近藤朗 が3代目の代表に就任 ／外部NW交流、多様性、多世代共有を テーマに次の10年を変えていく決意</p>	<p>多方面へのアプローチ開始 奈佐の浜Pと矢作懇談会を 二つの柱として主体的役割 を担う</p> 
2014. 7. 1	<p>水循環基本法 施行 【基本理念】 ● 水循環の重要性 ● 水の公共性 ● 健全な水循環への配慮 ● 流域の総合的管理 ● 水循環に関する国際的協調</p> 	<p>8月~フォローアップ委員会 初代座長；高橋裕 「ここに いない奴らが問題なんじゃ!」 2期座長：沖大幹(2016~) 「出来ることではなく、やらな なければならないことを!」</p>  
2014. 7.19	<p>川づくり会議みえ(津) 総会・講演会 東京大学森林水文学研究所 蔵治光一郎、五名美江</p>	<p>(飽和雨量検証研究の今) 「森林はどれだけ雨を 貯めるのか?」</p> 

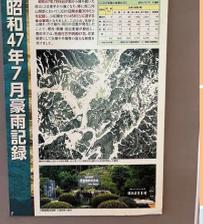
流域圏創造年表 2014-2017年

年月日	イベント	キーパーソンなど
2014. 8月	広島 8月豪雨 / 土石流等土砂災害 死者 広島中心に84名 (安佐地区他) 1999年災害 (土砂法制定契機) の再来 ～ 土砂災害防止法の改正へ	
2015. 8.21 ～ 8.23	第8回 2015全国雨水大会 愛知  	 
2015. 9月	国連総会においてSDGsが採択される 2030年まで、又は2025年までの目標	12.5 廃棄物の発生防止、削減、再利用などで大幅な廃棄物削減 14.1 あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する
2015. 9月	平成27年 関東・東北豪雨 / 利根川水系 (茨木健常総市など) 鬼怒川決壊 死者20名 	 
2016. 4.16	熊本地震 発生 熊本城 (熊本市) 崩壊 旧阿蘇大橋 (南阿蘇村) 崩落 など 熊本県全域で 甚大な被害 (一部大分県で) 	死者 約276人 (関連死燈含む)  
2016. 4.30 ～ 5. 3	愛知・川の会 九州・筑後川水系視察 直前に熊本地震が発生するも催行 ～(福岡県久留米) 古賀河川図書館 / 筑後川上流 (福岡・大分・熊本) 三連水車(朝倉) ～ 山田堰他三大堰 ～ 松原・下笠ダム1973完成 【蜂の巣城闘争/室原知幸】 *公共事業は理に叶い法に叶い 情に叶わなければならない 古賀邦雄 館長 	 
2016. 5.25	愛知・川の会 2016 総会・記念講演会 / 文献に見る河川・湖沼・ダム 「木曾川などダム補償精神」古賀邦雄	水資源開発公団(水資源機構) ダム用地補償業務の経験から 
2017. 4.30 ～ 5. 4	愛知・川の会 九州北部視察 ■2012年7月(熊本)九州北部豪雨、 2016年熊本地震後の復興状況中心 / (熊本市) 熊本城、加藤(清正)神社、 白川、緑川水系・緑川など各河川	 
2017. 7. 5～6	H29.7月九州北部豪雨 (梅雨前線) 発生 筑後川水系(福岡県朝倉市、 大分県日田市)など 死者行方不明者42名 岡崎からレッドサラマンダー 出動 	 
2017.12.24	参加者 303名 第1回ブラアイチ in 岡崎 開催	愛知・川の会が協力団体   

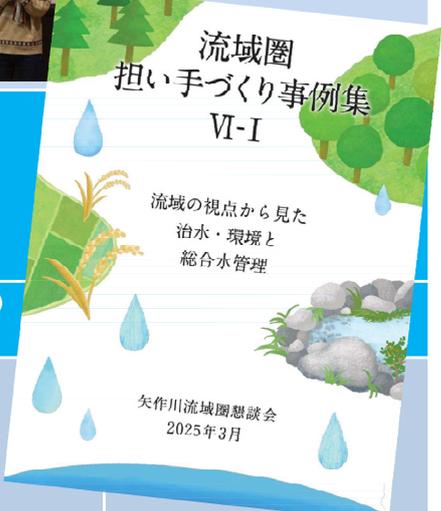
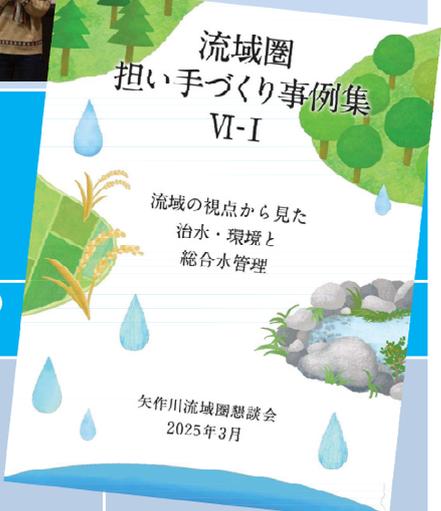
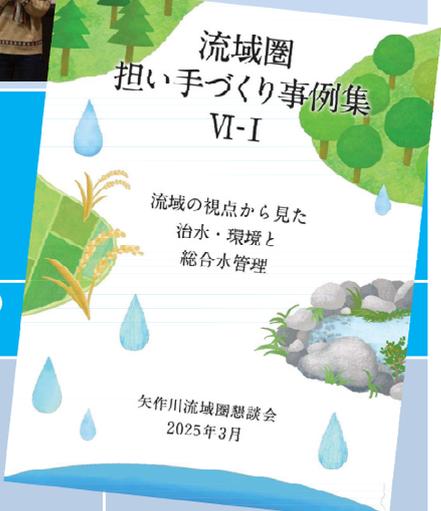
流域圏創造年表 2018-2019年

年月日	イベント	
<p>2018. 1.25 ～ 1.26 九州へ</p> 	<p>治水砂防協会現地視察（福岡・熊本） 2012/2017九州北部豪雨 2016熊本地震 ●福岡県朝倉市・東峰村／赤谷川被災現場 ●大分県日田市／JR落橋現場、松原ダム 「蜂の巣城闘争」歴史～公共事業誰のため ●熊本県南阿蘇村／阿蘇大橋落橋、斜面崩壊 ●熊本市／熊本城被災現場</p>	<p>【2015～2017年度 治水砂防協会 現地視察(近藤 参加)】 2015.10.22～23 伊豆大島視察 /2013.10月 伊豆大島土砂災害 避難に関する課題が浮彫</p>  <p>2016.10.20～21 広島土砂災害視察 + 宮島庭園砂防 /1999年、2014年土砂災害発生～土砂法の制定と改正へ * 開発規制の課題が浮彫</p>   <p>中国地整 谷川知美氏</p>
<p>2018.7.5～8</p>	<p>H30.7月豪雨（西日本豪雨） / 被害は西日本広域に及ぶ 高梁川・小田川（倉敷市真備町等） などで甚大な被害</p> <p>死者行方不明者270名以上</p>	
<p>2018. 9. 4日中 台風21号が 名古屋に最接近</p> <p>2018. 9 5</p> <p>2018. 9. 6 AM3:08 北海道 胆振東部 地震発生</p>	<p>台風21号 / 大阪から日本海に抜け、 北海道の西側へ北上する</p> <p>台風21号のまとめ</p>  <p>大阪など記録的な高潮 25年ぶり非常に強い勢力で上陸 四国や近畿、東海などで猛烈な雨 広く記録的な暴風 関西国際空港で58.1メートル 大阪市で47.4メートル</p> <p>第11回 いい川・いい川づくりWS in 北海道十勝大会(9.8～9.9) 中止、延期</p>	<p>●大阪湾で異常な高潮・強風 タンカーが関空連絡橋衝突</p> <p>近藤は第11回いい川WS北海道(帯広市内)参加のため、中部国際空港から新千歳空港へ(結果的台風21号追いかける形)～道内鉄道JRは全て運休やむなく9/5は千歳市内宿泊に</p> <p>2018. 9.6 未明 北海道 胆振東部地震 発生 近藤は震源地に近い千歳市内で激震に襲われる</p> <p>9. 5～9.10まで北海道滞在 / 鉄道、航空路など運休 レンタカーで視察、帯広へ</p>  
<p>2019. 3.19</p>	<p>全国水環境交流会主催 川の会共催 いい川づくり研修会in中部（名古屋） 「災害復旧と多自然川づくり」</p>	<p>九州大学 島谷幸宏 教授 吉村伸一 流域計画室 風土形成事務所 廣瀬俊介</p>
<p>2019.10.12～13</p> 	<p>令和元年 台風19号（東日本豪雨） 宮城、福島、長野県等広域被害 死者・行方不明者 108名</p>	

流域圏創造年表 2020-2023年

年月日	イベント	キーパーソンなど	
2020. 4. 7~ 	新型コロナ緊急事態宣言 (愛知4/16) 第1波/主に4~5月末 第2波/主に8月中 (~8/24) 第3波/2021.1.14~2月末	以降行動制限措置が断続的発令	中部NW等は web対応  2020.5.4 中部流域NW web懇親会
2020. 7. 3~4 	令和2年 7月豪雨 (梅雨前線) 球磨川水害 /熊本県の被害が最大となる 他に九州北部など(7月中)	 	
2020.12. 9	愛知・川の会「 東海豪雨20年 座談会 」	名大減災館 田代喬、末松憲子、中村晋一郎、安井雅彦、近藤朗	
2021. 1. 14~2.7	第3波新型コロナ緊急事態宣言 (愛知)		
2021. 3.26	中村晋一郎「 洪水と確率 」初版発行	~基本高水をめぐる技術と社会の近代史~ 	
2021. 4.28	第37回 水循環基本法 フォローアップ委員会	第3期 座長 ; 蔵治光一郎 (東京大学) 就任	
2021. 5. 12~	2021 新型コロナ緊急事態宣言	第4波/ 5.12~6.20 *第6波(2022.1月)以降はまん延防止 第5波/ 8.27~9/30	
2021. 7. 2	愛知・川の会 記念講演会 web配信 「治水と環境との調和 ~流域治水~」	名古屋工業大学教授 菅場祐一 2022年1月 中村晋一郎、田代喬 豊田市矢作川研究所所長就任	
2021. 7. 3	静岡県 熱海土石流災害 28名死亡	前線豪雨、違法盛土が原因	
2021. 7.18 	豊森なりわい塾 (講座) in 豊田・旭 「川と森のつながり」を考える (講師) 川の会・近藤朗 (Co) 洲崎燈子 (主催) 塾長 溢澤寿一 / NPO共存の森NW		
2022. 5.26	桂友会講演会 / 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子 木づかいで森とまちも幸せに ~47災害から50年の今...~		  
2023. 1.21	47災害から50年 コンサート (豊田市) 47災体験者らメッセージ 東京大学教授 蔵治光一郎	劣化する災害の記憶...	
2023. 5.27	愛知・川の会 新郷瀬川エクスカージョン 2010年豪雨災害から今 / 歴代の一宮建設河川整備課長と共に		
2023. 6月 	梅雨前線、台風2号の影響による大雨 (線状降水帯発生) 6. 2 豊川市御津山洞にて土石流発生など 新城市でも河川が埋塞	 	← 2023.10.17 愛知県砂防ボランティア協会にて視察 左; 御津山洞 右(2); 新城市内 (阿寺川) 森の人をつなぐ ~まちの人・森林ボランティア・山主・プロ・志士と共進へ~ 
2023. 7.20	初の試み~ 矢作川流域現場森林技能者 合同交流研修会 開催 / 山部会主催	4森林組合による人材育成・安全管理 蔵治、丹羽健司、信大 川崎海斗参加 →	
2023.11. 6~8 東京、多摩川源流へ	多摩川流域懇談会と矢作川流域圏懇談会 交流会 / 多摩川; 神谷博、竹内えり子、 山田夏希 & 矢作川; 洲崎燈子、星剛介ら		

流域圏創造年表 2024-2025年

年月日	イベント	トピックスなど
2024. 1. 1	<p>能登半島地震 死者行方不明者 約300名 (災害関連死70名含む) ■いろいろな意味で「分断」の災害</p>	 
2024. 1.20 ~ 1.21	<p>第2回 中部のいい川WS in 矢作川流域圏 流域治水と言う勿れ /名古屋工業大学教授 萱場祐一 大阪大学名誉教授 青木伸一 多摩川 神谷博、竹内えり子、他 矢作川水系(中流域)エクスカージョン (岡崎市・幸田町内) 平成20年(2008)8月末豪雨から今 /菱池遊水地、鹿乗川、伊賀川、乙川</p>	  
2024. 2.12	<p>矢作懇談会公開講座Ⅳ (豊田市内) 川がつなぐ 私たちの未来 富山和子論</p>	<p>NPO泉京垂井 神田浩史 日本トンボ学会 松沢孝晋</p>  
2024.8月	<p>新たな水循環基本計画の策定 「流域治水から流域総合水管理への深化」 ■2020.7月 流域治水の推進(社会資本整備審議会答申) ■2024.4月(首相刊提)岸田総理より流域総合水管理への転換を指示</p>	
2024. 8月末 ~9.2にかけて	<p>台風10号が九州から近畿・東海にかけて迷走 台風から離れた各地で災害が発生 /8.27 愛知県蒲郡市で土砂災害(3名死亡)</p>	 
2024. 9.21~23	<p>能登半島豪雨 死者16名 /1.1 能登半島地震被害に追打ち *地震避難所も被災 -></p>	 
2024. 9.28~29 9.27 手取川エクスカージョン	<p>第16回 いい川・いい川づくりWS in 白山大会(石川県白山市) (北陸地方整備局) 白山砂防科学館へ</p>	<p>■砂防「流砂系」研究水系 ■1934(S9).7月 手取川大洪水 により百万貫の岩が流れる</p> 
2024.12.17	<p>矢作懇談会公開講座Ⅴ(名古屋大学減災館) 流域の視点から見た治水・環境と総合水管理 /蔵治光一郎、萱場祐一、森照貴氏</p>	 
2025. 1.28	<p>埼玉県八潮市にて下水道管路破損、道路陥没事故 社会基盤インフラの危機、とりわけ水は「命」</p>	
2025. 2. 1~2 三重県四日市へ 	<p>第3回 中部のいい川WS in 伊勢湾流域圏・四日市楠地区 /伊勢湾から見た私たちの流域と つながり ~ 4つのアプローチ 名畑、中村晋一郎、清水雅子、森誠一、 松沢孝晋、新玉拓也、神田浩史、 佐藤寿延局長、小池時広、米田、他</p>	 
2025. 2.28 ~ 2025.6.27	<p>「流域総合水管理のあり方」検討会 / 審議会議論が始まる 国土審議会(水開発分科会) 田中敬也 水資源計画課長 ×社会資本整備審議会(河川分科会) / 2.28 第1回 3.25 第2回 4.25 第3回 5.23 第4回 委員; 沖大幹、戸田祐嗣ら 2025.6.27 「流域総合水管理のあり方」答申される</p>	
2025. 3.13	<p>水循環基本法フォローアップ委員会・水制度議連共同研究会(第2回) 「流域総合水管理のあり方」 ~ 想像を絶する覚悟と努力が必要</p>	
2025. 3月	<p>矢作川流域圏懇談会ミライ会議 流域圏担い手づくり事例集Ⅵ「流域総合水管理」 発刊へ / 2024.12.17 矢作川流域圏懇談会第5回公開講座 記録 蔵治光一郎、萱場祐一、森照貴、洲崎燈子 「総合治水から流域治水、そして流域総合水管理へ」 近藤朗</p>	



未来創造プログラムの展開と展望

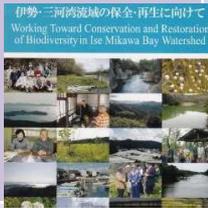


地域未来・志援センター

2025年8月

地域の未来・支援センターと、未来創造プログラムのあゆみ

年度	地域の未来 ・支援センターのあゆみ	川や海での展開	山・森での展開
1980～1990年代	1980 中部リサイクル運動市民の会（中リ）発足 (2000.NPOへ) 1993. ソムニード 設立 竹内ゆみ子 氏 / 国際支援 ■2000.より 高山で活動開始 ■2013.より ムラノミライ へ	1980.8月 長野県下諏訪町(湖浄連) 諏訪湖浄化対策連絡協議会 設立 1981. 藤前干潟埋立計画発表 ～ 干潟埋立反対運動展開される 1990. 国際的な海ごみ調査 ICC (国際海岸CleanUp) 契機に JEAN 設立 1994.7月 豊田市矢作川研究所 設立	1976～ 曾我部行子氏 瀬戸に暮らす 1990. ものみ山自然観察会 発足 ～ その後、海上の森での愛知万博 計画が発表され反対運動が起きる 1995.12月 2005愛知万博閣議了解
1992. 6月	リオ地球サミット1992 国連環境開発会議「リオ」宣言 / アジェンダ21採択 生物多様性条約など提起		
1995.1.17	兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災） / 死者行方不明者 6,400名以上		災害ボランティア活動が目目される
1997. 6月	河川法改正 / 河川環境の保全と創出を目的に追加 ■1999.河川審議会「パートナーシップによる河川管理」提言		1997.6月 BIE にて愛知万博 決定 ～ 会場問題が残る(海上縮小へ)
1997～1999		1998.7月 第1回「川の日」WS 開催 人と川の新时代へ 1999. 1月 名古屋市が藤前干潟埋立を断念 ～2月「ごみ非常事態」宣言	1999-2000 市民参加型【海上の森】 「市民からの環境アセスメント」を実施（ものみ山自然観察会）
1999.12月	NPO法（特定非営利活動促進法）の施行		
2000	2000.9月 東海豪雨襲来 / 愛知県に甚大な被害及ぼす * 矢作川上流域で土砂崩れ、大量の流木が矢作ダムに流入する		2000.5～12月 愛知万博検討会議 開催（全13回） 谷岡郁子 委員長 / 長久手主会場、瀬戸会場大幅縮小 「環境万博」「市民万博」提案 2000. 海上の森～藤前「万歩く」 だれでもばんぱく協会 設立 2002.～「EcoStock on 水辺」開催 2003.7月、「川の日」WS でGP 受賞 2004. 海上の森の会 設立
2000～2004		2001.5月. 第1回 矢作川「川会議」開催 7月. 第4回「川の日」WS GP 受賞 2003.3.18 愛知・川の会 設立 2003.8月～ JEAN「海ごみサミット」スタート（～2016.第14回まで） 2004.10月～ 藤前干潟クリーン大作戦	
2004	2004.12月 地域の未来・支援センター 設立総会	2004.9月 台風21号による三重県・宮川等災害 ～各地に甚大な被害及ぼす / 特に宮川で大規模な山地崩壊、伊勢湾に大量の流木が流出する	
2005. 3月～9月	愛知万博開催（瀬戸・長久手） 「自然の叡智」テーマ	2005.7月 第8回「川の日」WS in 矢作川を開催（豊田市） / 海上の森などでエクスカージョンも展開	
2005～2007	2005.4月 地域の未来 NPOへ ■ 大学生インターン 受入れ（2005～2017年度）、 2050年担い手塾（2007～2009）など人材育成 取組む ■ 地域づくり支援 の展開	2007.8月 水シンポジウムあいち 開催 太田猛彦、保屋野初子、阿部夏丸ら / 愛知県主催 愛知・川の会 実行委	2005～2014 矢作川 森の健康診断 矢森協 丹羽健司、蔵治光一郎ら 2006. あいち海上の森条例 制定 あいち海上の森センター 開館
2008		2009.2月～ 全4期調査【環境省事業】 第10回生物多様性条約締約国会議（愛知・名古屋）に向けた 伊勢湾流域圏活動調査をJFB展開～ 2011/72団体 2010年度. 開発系NGO調査 名古屋NGOセンターと共に / 2024.8.11(高山) 竹内ゆみ子など (4期調査) 2011.1.24 神田浩史など	2008.4.19 生物多様性フォーラム (JFB) 設立 / 2010 COP10開催へ
2009～2010	2009～2018 豊森なりわい塾 運営(2019～2022はおいでん・さんそんセンター へ移管) / 塾長; 濫澤寿一 丹羽健司、洲崎燈子ら		CD2010エクスカージョン 展開 2010.2.6 伊勢湾を考える「今は昔」 2010.9.20 河口都市名古屋 2010年度 第4期調査(損斐川流域) は岐阜・野村典博 氏がアテンド
2010.10月 10.11～29	生物多様性条約 第10回締約国会議 愛知・名古屋 (CBD/COP10) 開催 Count Down 2010 Project の推進 / 生物多様性フォーラム (JFB) ホストNGO担う / Nacs-J、WWF Japan、日本野鳥の会などと共に JFB 武者小路公秀、清野聡子、曾我部行子 × 道家哲平、古南幸弘など		10.24 JFB公式エクスカージョン 「河口都市名古屋を考える」藤前等 10.26,27 COP10フォーラム開催 ～生物多様性の担い手づくりへ
2010	COP10 グリーンマップ (生物多様性) プロジェクト	2010.8月 矢作川流域懇談会 設立 2010.11月 愛知・川の会 外来種シンポジウム / 中井克樹、谷口義則 ら	2010.12月 JFB 韓国四大河川IP 視察 / ナクトンガン、韓川、清溪川 2011.2.20 生物多様性流域対話Ⅱ 2011.3月 JFB CD2010 美し国みえ エクスカージョン ～ 伊勢湾へ
2011.3.11		東日本・大震災 大津波が東北地方東海岸を襲う 死者・行方不明者 約23,000人 大量の災害ごみが太平洋へ	

年度	地域の未来 ・支援センターのあゆみ	川や海での展開	山・森での展開
2011	  伊勢・三河両流域の保全・再生に向けて Working Toward Conservation and Restoration of Biodiversity in Ise Mikawa Bay Watershed	2011.8月～伊勢湾流域圏5期調査 ／矢作川研究所等矢作川流域 矢作川流域圏懇談会などについて 自主調査として展開(環境省動向) ／吉崎海岸清掃 森一知、下田菜生 2011.12月 海会議みえ 竹内泰介 ／答志島漁師 小浦嘉門 からのSOS	2011.3月 COP10 CD2010報告書 発刊 「世界はきっと変えられる」 2011.7.3 JFB解散 総会 2011.7月～2012.5月 東日本大震災視察 2011.11月(金沢)生物多様性流域対話 中部 2011.12月 JFB 石徹白エクスカージョン 2012.3月 名大 加藤杏奈 ハワイ大へ渡米
2012		2012.4.1 22世紀奈佐の浜プロジェクト (NSP22)委員会 設立／小浦嘉門 代表	矢作川流域圏懇談会地域部会スタート 8月 近藤は山部会へ参加開始
2013	■5月～三ツ松由有子氏 が事務局就任する	2013.5月 愛知・川の会代表 近藤朗 就任 2013.6月 NSP22 郡上市長良川で流域 エクスカージョン 開始／～3県で展開 *2014.6月は愛知県 西の浜で開催	2013. 豊田市 おいでん・さんそん センター開設／鈴木辰吉 山部会にて 山村再生担い手づくり事例集 調査が開始される(～2016年度まで4冊)
2014. 7. 1	水循環基本法 施行		
2014	NPO訪問ヒアリング 開始 2014～2017まで 67団体	2014.10月より NSP22学生交流会 開始 2015.1月 全国川ごみサミット スタート	2014.5月 矢作山部会 in 恵那・上矢作 モンゴル村での 担い手交流会
2015. 9月	国連総会においてSDGsが採択される アジェンダ2030/2030年まで、又は2025年までの目標		
2015	■竹内ゆみ子 理事長就任 2016.2月 情報交流会 渥美半島／渡邊幸久	2015.8月 全国川ごみネットワーク 設立 2015.8月 全国雨水大会 愛知 開催 ／蔵治光一郎、延藤安弘、神谷博ら	2015.9月 山部会 長野/近自然の森視察 2015.9月 山・海合同部会 東横豆海岸 2015.12月 山村事例集Ⅲ「天下杉」取材 2016.1月、2017.4月 「天下杉」公演
2016	10月 情報交流会 揖斐川 ／嘉田由紀子氏参加	2016.5月 市民の伊勢志摩サミット ～伊勢湾イニシアティブの提言 2016.10月 海ごみサミット④三重会議	2017.1月 山部会 神奈川県山北 酒匂川へ (2017.9月は 天竜川鷲流峡 竹筏下りへ)
2017	5月 市民の伊勢志摩 サミット1周年(大垣) 9月 情報交流会 三重北勢	2017.11月 海ごみ減らそうフォーラム in 岡崎／JEAN主催、川ごみNW NSP22、矢作川流域圏懇談会の参加	2017.4月 初の 事例集交流会 in 根羽村 2017～矢作・流域圏担い手事例集 調査へ転換(2013～2018; 102団体)
2018～	未来創造プログラム 開始 ／学生たちへの活動支援	NSP22 学生部会をスタートさせる ■中流域連携NW構築に向けての始動	矢作川流域圏懇談会との連携を模索
2018	2019.2月 山川里海情報 交流会(名古屋)／木村尚、 NSP22学生、新玉拓也 ■近藤朗が理事に就任 (同時期 川ごみNW理事も)	2018.10月 24時間 朝まで川談義 岡崎 2018.12月 いい川WS北海道・十勝にて NSP22 準NP受賞/学生部会の活躍 ／岐阜大 見屋井、四日市大 浅井ら	2018. つくラッセル、奏林舎 がスタート 2018.4月 事例集交流会② in 佐久島 2018.8月 懇談会3部合同部会 in 岡崎 2019.1月 NSP22学生部会 石徹白合宿
2019	 2020.2月 山川里海情報 交流会 垂井／神田浩史 唐澤晋平、下田菜生、 NSP22学生、坂本貴啓	2019.8月 NSP22学生部会 答志島合宿 2019.10月 いい川WS京都・滋賀にて NSP22 学生部会の活躍 ～中部誘致 ／岐阜大、中部大、四日市大 平野ら 2019.12月 中部流域連携NW 設立 2019.12月 NSP22学生部会 佐久島合宿 ／矢作川懇談会 高橋伸夫ら協力	2019.6月 事例集交流会③ in ぬかた ／矢作川流域圏懇談会10年誌PT 始動 洲崎燈子、近藤、高橋伸夫、 浜口美穂、中田慎ら 2019.7月 丹羽健司 百経 開設 2020.2月 懇談会10年誌 パイロット版 発刊
2020. 4月～	新型コロナ緊急事態宣言 以降行動制限措置が断続的発令		
2020～ コロナ禍	2020～ 中部流域NW連携 ／流域連携NW事務局担う ■コロナ禍での展開模索 ■矢作川流域圏懇談会と の連携を模索、参加	2020.9～12月 NSP22学生伊勢湾取材 ／小浦、鳥羽市長、下田ら ～動画作成 2020.12月 中部流域連携NW+NSP22 ゆく川 くる川 川談義 全国 web配信 ／NSP22 「僕達には仲間が必要です」 世代継承じゃない！一緒にやるんです	2020.7月 山部会 ぬかたへ 三ツ松 初参加 2020.7.22 10年誌座談会／名畑恵+PT 2020.10月 山部会 恵那・岩村 百経 開催 2020.12月 矢作川流域圏懇談会10年誌 矢作川がつなく人びと、未来へのキセキ 発刊される ～ 奇跡の10年誌
2021	2021～ 森と子ども未来 会議 伴走支援 ／学童保育木造化P 2021～2022 山間地域循 環共生調査(丹生川地域) ローカルDSGs 高山市・ 丹生川地区(9回開催)	2021.7月 矢作 公開講座 初開催(豊田市) プラスチック汚染 問題／千葉賢+学生 2021.8月 矢作 ミライ会議 開始 2021.10月 いい川WS中部・長良川大会 ～ NSP22学生たちが水リレー展開 「継ぎ長良」～つぎながら	2021.7月 豊森なりわい塾／近藤朗 登壇 「川と森のつながり」洲崎、澁澤寿一 2021.11月 山部会 足助に米田紗歩初参加 2022.2月 根羽村インターン合宿 初開催 2022.3月 流域圏担い手づくり事例集Ⅲ 「学童保育木造化プロジェクト」発刊
2022	2022.7月 高山・森づくり 研修合宿／長瀬土建 協力 ～ 2023も実施	2022.5月 中部流域連携NW+NSP22 天竜川まるごとエクスカージョン 2022.9月 いい川WS関東・東京大会参加	2022.5月 豊森なりわい塾 終了(2019～ おいでん・さんそんセンターが運営) 後継として2023.4.1 に 山里ひとなる塾 が設立(運営;おいでん・さんそん)

年度	地域の未来 ・支援センターのあゆみ	川や海での展開	山・森での展開
2022	<p>2022.10月 きれいな水と命を守る全国集会@揖斐川流域 (垂井町) 支援 / 辻谷貴文、神田浩史 ら ■NSP22学生合宿と中継</p> <p>2023.2月 東海地区 市民活動C スタッフ交流会 (七番) まちの縁側 名畑恵 / NPO・自治会の連携</p> <p>2022年度をもって セブンイレブン記念財団助成の打ち切り</p>	<p>2022.10月 NSP22 答志島海岸清掃⑩ & 学生合宿Ⅰ 初開催 / 3年ぶり清掃 森里海を結ぶフォーラム 同時開催</p> <p>2022.11月 第1回中部のいい川WS in 天竜川流域 開催 (長野県宮田村)</p> <p>2022.11.21 野村典博 氏 逝去</p> <p>2022.12月 鳥羽市SDGs 観光 取材 / 戸田家など×積水化学労組+NSP22 ~ 企業連携などを模索して行く</p> <p>2023.2月 みなと総研・榎並氏と打合せ / 伊勢湾再生海域検討会等と連携検討</p> <p>2023.3月 河川文化を語る会×NSP22 NSP22の軌跡と展望 / 小浦、千葉賢 ■各県代表は学生部会OBに任せる! / 見屋井、今井和樹、下田菜生 ら</p>	<p>2022.8月 根羽村 森のミライ合宿Ⅰ 開催 / 根羽村森林組合 今村豊、小野隆治、山本徹、英介、他 幸山明良、杉山泰彦 岐大、名城大の他、信大学生達も合流</p> <p>2022.11月 矢作山部会 足助 / 自給家族 鈴木辰吉 ■信大学生たちの参加</p> <p>2023.1月 濫澤寿一 講演会・交流会 「SDGsのいいところではダメだ」</p> <p>2023.2月 矢作・全体会議 / 蔵治光一郎 「流水は流域全体の問題である」</p> <p>2023.3月 流域圏担い手づくり事例集Ⅳ 「都市の木質化プロジェクト」発刊 / 錦二丁目 名畑恵 ら取材 取材に筒井千遥、信大学生らが参加 近藤「都市のいいところをやめよう」</p>
2023	<p>2023年度より 三ツ松由有子 氏は 中リ事務局に就任</p> <p>2023.5月 浜松 フェアトレードマーケットへ / 河合良太、下澤嶽 × 三ツ松、浜口、近藤</p>	<p>2023.6月 NSP22 第25回日本水大賞・市民活動賞を受賞 / 下田菜生 も参加 「5年後に私が大賞をとってやる!」</p> <p>2023.8月 韓国 川の日大会 (益山市) / プレゼン NSP22 今井和樹</p> <p>2023.9月 いい川WS 東北・仙台大会</p> <p>2023.10月 NSP22 答志島海岸清掃⑩ & 学生合宿Ⅱ 開催 / 近藤「ここで見る惨状は、決して他人事ではない!」</p> <p>2024.1月 第2回中部のいい川WS in 矢作川流域圏 開催 (豊田市能楽堂) ~ 流域治水と言う勿れ ~ / 萱場祐一、青木伸一、新玉拓也 筒井千遥「それまでは他人事でした。これからは自分ごとになります!」</p> <p>2024.2月 矢作 公開講座Ⅳ (豊田市) 川がつなく私たちの未来 富山和子論 / 神田浩史、松沢孝晋、洲崎燈子 ら</p> <p>2024.3月 流域圏担い手づくり事例集Ⅴ 「伊勢湾・三河湾の豊かさ」発刊</p>	<p>2023.4.1 山里ひとなる塾 戸田友介 塾長</p> <p>2023.5月 わたしと海上の森をめぐる 30年誌 発刊 / 曾我部行子、増田理子</p> <p>2023.5月 事例集交流会④ in 豊田 旭 / 「森と子ども」「都市木」名畑恵 ら</p> <p>2023.7月 矢作川4森林組合合同の 矢作川流域現場森林技能者交流研修会 / 信州大学 川崎海斗 も参加 記録「森の人をつなぐ」2024.2月発刊</p> <p>2023.9月 根羽村 森のミライ合宿Ⅱ 開催 / 根羽森林組合 小野隆治、山本英介、他 西川彩花、根羽役場・村民たち 信大 渡邊美里、牧野純怜、佐竹寅次郎、川崎海斗、人間環境大学生 初参加 江口先生、東海林修、筒井千遥 ら</p> <p>2023.11月 矢作川×多摩川源流交流会 / 奥多摩湖、山梨県まで 神谷博、竹内えり子、山田、佐山公一、洲崎燈子、清水、星剛介、中田慎 ら</p> <p>2023.12月 JICE 鶴田舞 来県・矢作川へ</p>
2024		<p>2024.6.2 野村典博氏を偲ぶ会 (岐阜)</p> <p>2024.6月 第26回 日本水大賞・環境大臣賞を豊田市矢作川研究所 が受賞</p> <p>2024.7月 事例集交流会⑤ in 鳥羽・答志 / 中村欣一郎 鳥羽市長 参加</p> <p>2024.8月 NSP22×積水化学労組組合員 答志島奈佐の浜海岸清掃 本格実施</p>	<p>2024.5.31 矢作山部会 旭 / 水循環政策</p> <p>2024.6.1 矢森協20周年シンポジウム / 東海豪雨から始まった市民の森づくり</p> <p>2024.7月 矢作山部会 恵那 / 百経にて 高橋啓、川崎海斗、信大 渡邊美里 ら 近藤「懇談会の根拠恒例は河川法でなく、水循環基本法なのではないか!」</p>
2024. 8月	<p>水循環基本計画に「流域総合水管理」が位置付けられる ~全国109水系で計画策定へ ■2024.4.2 水循環政策本部会合にて岸田総理から「流域治水から流域総合水管理への進化」指示される</p>		
2024.9月~	<p>2024.9月~ 中リよりNSP22 及び 全国川ごみNWへ JICA研修の協力依頼</p> <p>2025.1.24 JICA研修 (名駅)川ごみNW 金子博</p> <p>中リ、循環フェス名古屋 (2025.4月)に向け準備 実行委員会 学生と共に</p>	<p>2024.10月 NSP22 答志島海岸清掃⑩ & 学生合宿Ⅲ 開催 / 伊勢湾3県広域 計画 八千代エンジニア 吉田拓司、後藤里花、テレビ愛知、長野県諏訪湖 小口智徳</p> <p>2024.12.3 長良西小×NSP22交流会</p> <p>2024.12.4 JICA研修【廃棄物管理】 (戸田家) NSP22 千葉賢、近藤朗</p> <p>2024.12.17 矢作 公開講座Ⅴ (名大) 流域総合水管理 / 蔵治、萱場、森 ら</p> <p>2025.2月 第3回中部のいい川WS in 伊勢湾流域圏 開催 (四日市市楠) ~ 伊勢湾から見た私たちの流域 ~ / 中村晋一郎、森誠一、新玉拓也 「海(伊勢湾)から全てが繋がる流域」</p>	<p>2024.9月 根羽村 森のミライ合宿Ⅲ 開催 / 大久保憲一 村長を囲んで、 幸山明良 山地酪農、飯田市へ</p> <p>2024.9月 矢作山部会 根羽 / 長瀬土建、ふじくぼ林産 斎藤慎吾 ら参加</p> <p>2024.11月 多摩川×矢作川交流セミナー</p> <p>2025.2月 矢作山部会 ぬかた / 流域圏大学の構築に向けて</p> <p>2025.2月 旭・足助 森のミライ合宿Ⅳ / しきしまの家 鈴木辰吉 関係自治 人口減少と向き合い 関係人口の構築</p>
2025. 2月~ 2025.6.27	<p>「流域総合水管理のあり方」検討会 / 国土審議会 (水開発分科会) ×社会資本整備審議会 (河川分科会) 2025.6.27 「流域総合水管理のあり方」答申される</p>		
2025. 3.13	<p>水循環フォローアップ委員会・水制度議連合同研究会 「流域総合水管理」 ~ 想像を絶する覚悟と努力が必要</p>		



流域圏創造年表 伊勢湾・遠州灘流域圏大学 2024-2025年

年月日	イベント	
<p>2024.1月～</p>  <p>流域圏担い手づくり事例集V 伊勢湾・三河湾の豊かさを考える</p>	<p>流域圏担い手づくり事例集V 本格的取材始動「伊勢湾・三河湾の豊かさを考える」 1.24 鳥羽市水産研究所 岩尾豊紀×小浦嘉門 2.28 鳥羽市環境課・観光課(市長)×積水労組 3.9 名城大 鈴木輝明×中電 豊かな伊勢湾意見交換会 3.15 愛知県水産課 松村貴晴×青木伸一 3.21 三重県水研 岡田誠、愛知県水試 石田俊朗 3.23 伊勢市にて パスコ 米田紗歩×近藤朗 3.24 海の博物館 平賀大蔵×信大生5人、米田、平野 3.31 (岐阜市内) シンポジウム 海と川 富樫幸一 平賀大蔵、平工顕太郎×中村欣一郎、水崎貴久彦 4.11 佐久島振興課 三矢由紀子、OMM内藤美和 4.19～20 (鳥羽市) 鳥羽市役所、中村屋旅館、島の旅社(海女)濱口幸子さん×湖浄蓮 小口智徳、清水雅子、星剛介、榎並万里子、三ツ松、浜口ら</p>	
<p>2024.3月</p>	<p>蔵治光一郎 編「長良川のアユと河口堰」 発刊</p>	
<p>2024.7.6～7.7 鳥羽へ 伝説の事例集 伝説の交流会</p>	<p>矢作川流域圏懇談会担い手づくり事例集V「伊勢湾・三河湾の豊かさ」交流会 in 鳥羽 / 鳥羽市立海の博物館～答志島へ NSP22 小浦嘉門 蔵治光一郎、青木伸一、洲崎燈子、鈴木建一 鳥羽市中村欣一郎、平賀大蔵、北橋亜由那、NSP22 米田紗歩、筒井千遥、三重県水産研 岡田誠</p>	
<p>2024.9.1～2</p> 	<p>第3回 林業のミライ合宿 in 根羽村 「何故、地域材を使うのが良いことなのか？」 根羽村長 大久保憲一、山地酪農 幸山明良 新井建築工房「伊那谷の森で家を」 新井優 (飯田市) シードルバーンにて 根羽村森林組合 山本英介、建築家 東海林修父子 信州大学 渡邊美里、牧野純伶、佐竹寅次郎 林野庁 川野純也、人環大 江口則和、鈴木建一、大嶋夫妻、三ツ松、近藤 全12名 台風10号接近の中</p>	
<p>2024.10.12～13</p>	<p>NSP22 答志島合宿&第12回奈佐の浜海岸清掃</p>	
<p>2025.2.15～16</p> 	<p>第4回 森のミライ合宿 in 豊田市 旭・足助 「これからの山の暮らし～人口減少と向き合う」 自給家族/しきしまの家 鈴木辰吉、猟師・清水潤子、山本薫久、人環大 江口則和+学生たち、信州大 渡邊美里、牧野純伶、佐竹寅次郎、石原龍太、洲崎燈子、近藤、三ツ松、林野庁 川野純也、建築家 東海林修父子、大嶋夫妻</p>	
<p>2025.4.19</p>	<p>循環フェス 名古屋(栄) 中部リサイクル運動市民の会×学生たち</p>	
<p>2025.5.18</p>	<p>ブラアイチ in せと 海上の森の「きわ」 / 矢田川・山口川、山口堰堤 #東海湖のきわ #東海丘陵要素 ■愛知・川の会；山口川～かつての水利利用と瀬戸の産業 ■愛知県砂防課、砂防ボランティア協会；山口堰堤～多目的ダムのパイオニア</p>	
<p>2025.5.23～5.24</p>	<p>愛知・川の会 総会・記念講演会 龍川水系エクスカーション 人環大 中西みずず、渡邊 米田紗歩</p>	
<p>2025.6.1</p> 	<p>未来創造プログラム 海上の森の未来 スタディツアー ～学生たちに向けて / 海上の森モニ1000 曾我部行子、松沢孝晋</p>	
<p>2025.9.2</p>	<p>全国川ごみネットワーク 全世代リレーミーティング(全3回予定) 第1回 伊勢湾から / 新玉拓也、三ツ松由有子</p>	 <p style="text-align: right;">【絶賛募集中】</p>
<p>2025.9.14～15</p>	<p>第5回 森のミライ合宿 in 天龍村 ～祭りが繋ぐ～</p>	<p style="text-align: right;">【絶賛募集中】</p>
<p>2025.10.11～12</p>	<p>NSP22 答志島合宿&第13回奈佐の浜海岸清掃</p>	<p style="text-align: right;">【絶賛募集中】</p>

ミライ合宿 2025

in 天龍村

- ・循環型農業について知り伝統野菜の味を知る
- ・受け継がれてきた伝統文化の祭、舞について学ぶ

この2つをテーマに2日間活動します！

農業に興味がある、中山間地の暮らしについて知りたい、なんか面白そう、などなど少しでも興味のある方大歓迎！！



天竜川



伝統芸能の神楽舞祭



循環型農業

日程

2025年9月14日(日)～9月15日(月)

宿泊

天龍村向方地区おためし住宅(予定)
長野県下伊那郡天龍村神原3929番地1

参加申し込みはこちらから
お願いします。

場所

長野県天龍村

参加費

6000円(予定)《食事4回+保険代》



主催： 22世紀奈佐の浜プロジェクト(中部流域連携ネットワーク)学生部会
 共催： 矢作川流域懇談会、NPO法人地域の未来・志援センター
 ※https://www.vill-tenryu.jp/tourism/festival_heritage/festival/okiyomematsuri/



2025年度
第1回全国川ごみネットワーク 全世代リレーミーティング
みんなで新しい未来を創ろう

～伊勢湾から世代も超えて流域を繋ぎながら～

2025年

9月2日(火) 19:00～20:45 オンライン

いままで8回のオンラインセミナーでの学びを経て、2025年度はより多くの方々、全世代と共に水環境問題全般(プラスチックごみ汚染含め)に取り組んでいくための枠組みを構築したく、リレーミーティングを開催します。今まで参加いただいている皆様の**豊かな経験**と、若い世代などの**柔軟な発想と行動力**が融合することで、大きく時代が変わっていく今、「**新たな未来の創造**」が可能となることを期待しています。

第1回目は、中部・伊勢湾での活動を紹介。海洋ごみ問題を入口として大学生などの**担い手づくりを实践**、あるいは**多世代が協働して展開**する川づくりをリードしている2名にお話しいただき、その目的や手法、意義とは何かなどを議論、共有します。周りの多くの世代の方々にもお声がけください。

話題提供・鼎談 19:00～20:00 (19:00-19:05 開催説明)

スピーカー

新玉拓也さん

(魚と子どものネットワーク 代表)



【プロフィール】

1985年生まれ、三重県亀山市出身。滋賀県立大学環境科学部卒業、名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程修了。在学中の2008年に魚と子どものネットワークを立ち上げる。

スピーカー

三ツ松由有子さん

(地域の未来・志援センター 事務局長)



【プロフィール】

2013年より環境中間支援組織・地域の未来・志援センター勤務。環境団体ヒアリングを行う中で22世紀奈佐の浜プロジェクトと出会い、2018年より担い手づくり・多世代交流事業を実施。

コーディネーター

近藤朗さん (22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会)

みんなで意見交換 20:00～20:40 (20:40～20:45 事務連絡等)

※ 以降、第2回目は10月に「山形での取組」、11月に「諏訪湖での取組」をリレー方式で展開していきますので、お楽しみに。

申込方法

グーグルフォーム(右記QRコード)から。
または、「kawa53@kawagomi.jp」あてに、氏名、所属、連絡先Eメールを記載し、Eメールでお申込ください。



申込フォーム

Zoomを利用します
参加費無料
先着50名河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。申込
問合せ先

全国川ごみネットワーク

TEL 080-8167-8577 Eメール kawa53@kawagomi.jp